学校法人永原学園

さんこう
児童クラブ通信

令和６年１２月発行
―　第９号　―

【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

もう～師走

幼稚園・保育園の環境が、がらりと年末バージョンに変わってきました。流れる曲にはクリマスソングも。

一方、猛暑・暖冬の影響で外では泥団子づくりやサッカー、バスケ、縄跳びなど、運動遊びもまだブームです。何だか、本当に 12 月？と、疑いたくなるような気候ですが、外でいっぱい遊んだ後は、マフラー編みや工作にも関心が広がり、プレゼントづくりに挑戦しています。

児童クラブでも、手先を使った製作活動が大人気で、友達の作品に刺激を受けて、素敵な作品ができてきました。児童クラブの子ども達は、自分の思いを込めてプレゼントにする子もいて、楽しそうに取り組んでいます。

今年は、コロナ禍から解放されて、様々な地域のイベントが復活してきました。年末に向けて、クリスマスのケーキ作りやおせち料理づくり、しめ縄づくり、もちつきなどが計画されています。特に、日本の伝統文化や食文化を伝える体験には是非参加しましょう。冬休みには児童クラブでも楽しい活動ができるようにしていきたいと思います。　　福元芳子先生

12月の目標

「めりはりをつけよう！」

宿題をする時、遊ぶ時、おやつを食べる時、目的をもって行動するときには、そのことに集中できる力を身に着けてほしいです。やるべきことはなにか考えたり、児童ｸﾗﾌﾞでの過ごし方に見通しをもって自己決定をしてほしいと思っています。

【生活を見直す】

１１月の目標でもあった基本的生活習慣を見直すこと。子どもたちにこまめに声を掛けながら「靴を並べる」「挨拶をする」等、自分から出来るようになるよう継続して意識しています。

ご家庭でも、靴を脱ぐときの脱ぎ方、並べ方や「お願いします」「ありがとう」等の挨拶を誰に対しても意識が向くよう、お声掛けや関わりをよろしくお願い致します。

【冬の製作】

ふわふわの毛糸でマフラーを編んだり、細い毛糸でキーホルダーを作ったりして季節感を味わいながら製作に取り組みました(*^▽^*)

毛糸 40 本じゃ
足りなかった。
（あと何本必要かな。。。）

自分でできる工程は
自分で頑張ります♪

妹は喜んでくれるかな♪

指編みマフラー

ミニチュアニット帽

おうちに飾ろうかな♪

気持ちのこもった作品が完成です(*^▽^*)

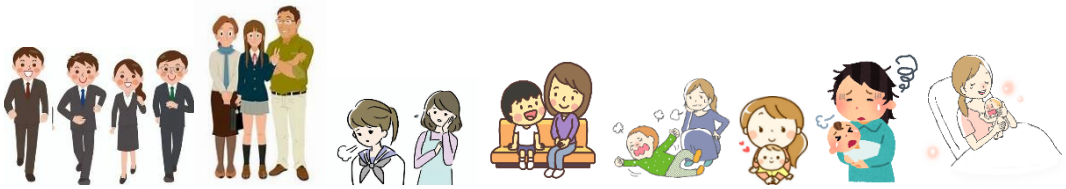
２学期もたくさんのご協力ありがとうございました。
３学期も引き続き、どうぞ、よろしくお願い致します！

１２月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	11 月末退所者数
1 年生	5	1	4	0	0
2 年生	13	0	13	0	0
3 年生	11	0	11	0	1
計	**29**	**1**	**28**	**0**	**1**

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

「子育て、楽しんでー(*^_^*)」

西九州大学短期大学部　地域生活支援学科　介護福祉コース主任　吉村浩美

この機会に自分の子育てについて振り返ってみたいと思います。嫁姑関係に奮闘しながらも 4 人の子供が巣立ちました。子育てはとても楽しいものでした。しかし、いっぱいいっぱい悩みもしました。自分が育った環境、自分が育てられた経験は途中からあまり役に立ちませんでした。自分とも違うし、4 人とも全く違う感性です。“自分はこのように育ったのでこうなった。なのでそうならないようにこうしよう。”または、“こうなったからここは同じようにやってみよう”…が通じない場面がある‥。子育ての仕方は多分高校等で習っていない気がします。看護師・保健師の学校では育児については習いましたが。（今は子育ての仕方を高校で教えるべきではないかと思ったりします）しかし今考えれば、子育てを受けた経験があるので、なんとなくできるような気がしていたように思います。幼いころ結構厳しめに育った私は、我が子にも小学校前後ごろから厳しくなりました。勉強で苦労しないように時間を見つけては勉強を教えました。しかし思うように学ぼうとしない我が子に頭を抱えました。そんな時、その子が体調不良になり、病院を受診すると『白血病かもしれないので詳しく検査をします』と言われ、大変ショックを受けました。そして２時間以上検査が行われた間、いろいろなことが頭をよぎり生まれてきてくれた時の気持ちに引き戻させてもらいました。“この子が楽しく生きてくれればそれが一番の幸せ”。生まれてきてくれた時、確かにそう思っていたことを思い出しました。幸い白血病ではなかったのですが、そこからは親の思い通りにいかなくても全く気にならなくなりました。“あの時、本当に重い病気で苦しんで命がなかったかもしれないことを思えば健康でいてくれるだけでどんなに幸せなことか。生きていてくれるだけでいい。”そう思えるようになると自分自身もとても楽になりました。だからと言って手を抜いたわけではありません。ただそれまでと違って自分が楽しく試行錯誤して、怒らずに、いらいらせずに子育てを楽しむことができるようになりました。下の子供たちもいろいろなことが起きてとても大変でもありましたが、悩みはしても子供にイライラすることはなく、それでもとても困ったときは心理の専門家(夫)の意見を聞きながら子供を信じて寄り添いました。振り返ればとてもとても幸せな子育ての時間でした。4 人の子供達は今、幸せな時間を過ごしている（と思う）。うち 3 人は子育てに奮闘中です。「なにがあっても楽しんで―(*^_^*)」と心から思います。今は“白血病かも知れない”と、振り返るきっかけがあったことにとても感謝しています。今、子育てで奮闘されている皆さんも、今しかできない子育てを楽しんでください。時々十分な息抜きをしながら。わからないことは子育ての専門家にどんどん相談し肩の荷を下ろしながら・・。